

# 「思考力・判断力・表現力」を育成するための指導とその評価 ～それぞれの場面でのエキスパートを育てる～

教育実践研究部長 村上 潤

## 1. はじめに

新学習指導要領が、今年度より全面実施された。

周知のとおり、新学習指導要領では、「生きる力を育む」という理念は引き継ぎ、知・徳・体のバランスのとれた力を生徒たちに身につけさせることをめざしている。

このうち、「知」に相当する「確かな学力」を構成する3つの要素（学力の3要素）である「基礎的・基本的な知識・技能の習得」、「思考力・判断力、表現力等の育成」、「学習意欲の向上と学習習慣の確立」は、相互に関連し合うものである。

一昨年度まで、本校では研究主題を「課題意識を高め、自らの問いを深める教育課程～学び合いを通して見つける価値ある学びとは～」と設定して研究活動を進めてきた。そして、新学習指導要領が全面実施された今年度からは、「学び合い」の研究成果を活かしつつ、新学習指導要領について改めて研究を始めてみることにした。これまでに「学び合い」を基本として協議してきた内容は、次の通りである。

\* 「学び合い」から論理的思考力や抽象的思考力の育成のために課題意識を高める。

\* 「学び合い」から表現活動につながる力を育成するために課題意識を高める。

\* 「学び合い」を通して、授業の内容をもとに学習の意義を理解する。

学力の3要素は、相互に関連づけて育むべきものである。そのなかで、本校の上記の研究成果を活かすことを考えたときには、「思考力・判断力・表現力の育成」に着目することがよいと判断した。さらに、「学び合い」の場において、その活動を活性化させる生徒を「学びのエキスパート」ととらえることで研究を始めることにした。

本研究は3年間の計画で行う予定とし、今年度はその1年目となる。

## 2. 研究主題

<研究主題>

「思考力・判断力・表現力」を育成するための指導とその評価  
～それぞれの場面でのエキスパートを育てる（仮）～

### (1) 「思考力・判断力・表現力」のとらえ方

「思考力・判断力・表現力のとらえ方」については、既に各地の研究校や研究団体より研究発表が行われてきた。

思考力は、一般的には考える力であるが、さらに具体化して「批判的に考える力」や「探る力」ととらえた発表がある。さらには、考え始める場面を設定する指導として、生徒を知識のズレや矛盾（「感動する」「驚く」なども含む）に気づかせるような状況におくことがよい、という発表もあった。

判断力については、「選択する」ことをキーワードとしたとらえ方が多く見られた。選択することを通して「自己決定」が行われることを示した発表もあった。

表現力については、特に「言語活動・言語表現」に特化した研究と「非言語表現」も含めた研究とに分かれているのが現状である。

このように、思考力・判断力・表現力のとらえ方には様々なものがあるが、多くの場合には、それぞれの力を個別に定義して研究を進めている。

本校では、今年度より思考力・判断力・表現力を研究主題に取り入れて研究を始めたが、現在のところ

るでは、これらの力を個別に定義することは行っていない。先行研究においても、これら3つの力を関連づけて「まとまり」としてとらえている発表もある。教科ごとの特性もあるので、教科単位での検討を行い、その成果を発表することとした。

ところで、文部科学省の表記では「思考力・判断力・表現力等」となっているが、本校の研究主題では「等」を外した。『等』に当てはまる力としてどのようなものがあるかについて研究することは意義がある。

本校は、新学習指導要領が全面実施された本年度より、改めて「思考力・判断力・表現力」を含む研究主題を定めて研究を始めた。そこで、研究の1年次である今年度は、まずは「思考力・判断力・表現力」の3つに限定した研究を行うこととした。来年度以降に、この3つの力を基にして、『等』に当てはまる力の研究を行うことは充分にあり得る。

なお、「指導とその評価」における「評価」には、「教員による評価」や「生徒による自己評価」などを挙げるができる。本研究では、評価の解釈の仕方は教科ごとの判断でよいとした。

## (2) 「エキスパート」のとらえ方

今回は、研究主題の副題に「エキスパート」ということばを取り入れた。本校では、研究活動においてこのことばを用いることは初めてである。日常でも使う言葉ではあるが、だからこそその定義を確立しておく必要がある。

### 1) ジクソー法におけるエキスパート活動

エキスパートということばを用いている学習方法には、すでに実践されているものがある。認知科学を基盤とした研究を通して「協調学習」と呼ばれる学習の仕方が示された。この学習における実践方法のひとつに「ジクソー法」がある。

ジクソー法は、あるテーマについての資料をグループで読み、理解したことを交換したり、答えを出すことで、次の学びを紡ぎ出す学習者中心の手法である。このときの「資料を読む」や「課題に取り組む」ことを「エキスパート活動」とよんでいる。さらに「エキスパートグループ」や「エキスパート資料」という言葉もある。<sup>1)</sup>

### 2) 教師側のエキスパート

県の教育委員会などが主催となり、「エキスパート教員」や「授業エキスパート」と呼ばれる教師側のエキスパートの養成に取り組んでいる実践が見られる。例えば、鳥取県教育委員会では、エキスパート教員の定義を「高い専門性と指導力を有し、優れた教育実践を行っている教員」<sup>2)</sup>と定めている。

また、埼玉県では、教育局主催の「授業エキスパートを目指す授業研究会」が実施されている。この研究会の趣旨には、「新学習指導要領のねらいを実現するため、基礎的・基本的な内容を確実に定着させ、思考力・判断力・表現力を育成する創意ある授業を校種を越えて参観し研究協議を深める」<sup>3)</sup>と示されている。

### 3) 本校における「学びのエキスパート」

現在、私たちが共通理解している「エキスパートについての考え方」は次の通りである。

\* 「エキスパート」は「活動の場面での引っ張り役」をさす。

- ・ エリートを指すものではない。
- ・ 「エキスパートの一要素がリーダー」である。  
→ リーダーに限定すると、「人を動かす力」が必ず求められる。
- ・ これまでの研究のキーワードであった「学び合い」を継承し、それぞれの活動の場において学びのエキスパートが仲間をまとめ、活性化させることをめざした指導を行う。
- ・ 生徒一人ひとりが、学校生活の中のいずれかの場面でエキスパートとなれるように「場を設定する」ことが、私たち教員の仕事である。
- ・ グループ活動だけを想定しているわけではない。

副題の「それぞれの場面」としては、学習活動、学級・学年活動、部・委員会活動など、学校生活の各場面を想定している。今年度は、そのうち「教科ごとの学習指導」の場面を中心として研究を進める。

### (3) 研究仮説

本校の研究主題における研究仮説は、次の通りである。

**<仮説> 学びのエキスパートを育てると、思考力・判断力・表現力が向上する。**

今年度の仮説の検証は、教科ごとに、その特性に対応した定量的・定性的な検証方法を確立することで取り組んでいく。検証の際には、「思考力・判断力・表現力」という3つの力を、「個別」もしくは「ひとつのまとまり」としてとらえることとする。このとき、「3つの力のいずれかに重きを置く」という場合もあり得る。

「学びのエキスパートを育てると、思考力・判断力・表現力が向上する」ことについての具体的な事例を次に示す。

**<具体的な事例> 仲間との作業において優れた技能を発揮できる生徒**  
ものを作る・書くなどの作業において、得手不得手によって作品の完成度に差が生じてくる。このとき、「作業をうまく行うコツ」を会得している生徒がいれば、その生徒は学習のエキスパートといえる。他の生徒たちは、その学習のエキスパートからコツを教わることで、自らの技能を向上させることができる。学習のエキスパートとしてコツを仲間に教えた生徒は、自らの存在価値を実感し、自信を持って授業に臨むことができるようになる。その結果として、「思考力・判断力・表現力」を向上させるきっかけをつかむ。

学習のエキスパートは、いわゆる「成績優秀者」に限定されるものではない。この具体的な事例では、技能面において優れた技能を持つ生徒の例を挙げた。この他にも、自ら意欲的な行動を示すことで学習集団の活動を活性化させる生徒など、色々な場面での事例を挙げることはできる。それらは、各教科からの発表で確認していただきたい。

留意すべきことは、「いくら優れた能力を持っていても、それを自分だけのものとしている者は、学習のエキスパートではない」ということである。成績優秀者は、その能力を仲間との学び合いに発揮して、自らも仲間とともに自信を持つことで、初めて学習のエキスパートとなる。

なお、「思考力・判断力・表現力を向上させると、学びのエキスパートが育つ」という逆の見方もある。これについての検証も今後は行っていきたい。そして、将来的には「思考力・判断力・表現力等」の「等」に相当する力についての検証も行っていく予定である。

### (4) 「研究主題」と「本校の教育目標・学校具体目標」との関連づけ

研究主題は、理想の生徒像の達成を目指して設定している。本校における理想の生徒像は、教育目標と学校具体目標として示されている。それらの目標を次に示す。

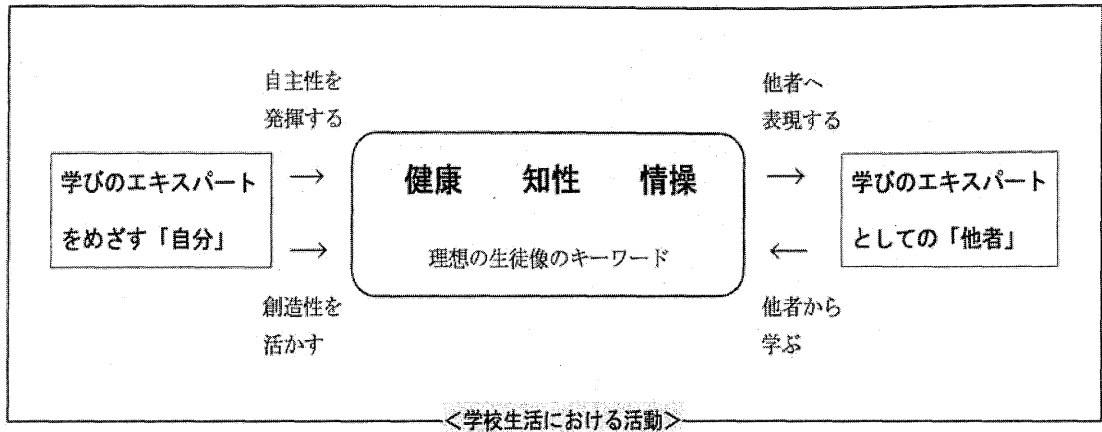
**<教育目標>**  
健康な身体とすぐれた知性と豊かな情操とを持ち、平和で民主的な社会の発展に貢献できる、自主的で創造性に富む国民を育成する。

**<学校具体目標>**

・自ら考え 実践する生徒	・創意を働かせ 工夫する生徒
・こころとからだを鍛える生徒	・考えや気持ちを的確に表現できる生徒
・思いやりや奉仕の気持ちを持つ生徒	・他から学び 自らを変革できる生徒

新学習指導要領に提示された内容と比較すると、本校の教育目標・学校具体目標は、「確かな学力を構成する3つの要素」と関係があることが分かった。そこで、「教育目標・学校具体目標を表すモデル図」を作成することに取り組んだ。そして、このモデル図をもとにして「主題研究の全体を表すモデル図」を作成した。その図を、図1に示した。

社会に貢献するエキスパート



学びのエキスパートである生徒は、自らがそれに該当しているという自覚はない可能性もある。大切なことは、生徒一人ひとりが、学びのエキスパートという言葉や考え方は知らなくても、学びのエキスパートとして活躍しようと努力することである。私たち「教員の役割」は、一人ひとりの生徒の中から、その学びの場に適したエキスパートを見出し、その能力を引き出すことである。

学びのエキスパートをめざす生徒は、自主性や創造性を発揮しながら、自己と集団の活動の成果を向上させる。さらには、他の学びのエキスパートへのはたらきかけや、他から学ぶ姿勢も持つ。これらの活動を通して、本校が教育目標に掲げている「すぐれた知性」「豊かな情操」「健康な身体」を身に着けた生徒として成長する。そして、将来は「社会に貢献するエキスパート」として活躍することが期待できる。

### 3. 参考文献

- 1) 東京大学大学院教育学研究科 大学発教育支援コンソーシアム推進機構ホームページ
- 2) 鳥取県教育委員会「鳥取県公立学校エキスパート教員認定制度に関する実施要綱」  
(平成23年10月5日施行)
- 3) 埼玉県教育局東部教育事務所「平成24年度 授業エキスパートを目指す授業研究会実施要項」